



NotoSatoumi
Movement

〈能登の里海ムーブメント〉



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study
of Sustainability

第1回「能登の里海」シリーズ講座

海の森は魚たちのゆりかご

～七尾の里海からみた海草・海藻の世界～

日時：平成27年7月4日（土）13:00–15:30（受付12:30～）

場所：七尾サンライフプラザ 視聴覚室（石川県七尾市本府中町ヲ部38番地）

主催：七尾市里山里海協議会、
国連大学サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット（UNU-IAS OUIK）

共催：世界農業遺産活用実行委員会

後援：七尾市

言語：日本語

参加無料、一般公開。参加ご希望の方は、お名前とご連絡先（E-mail アドレスまたは電話番号）を記載のうえ、「7月4日能登の里海シリーズ講座参加希望」と明記し、FAX または E-mail にてお申し込みください。

国連大学サステナビリティ高等研究所

いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット（UNU-IAS OUIK）

Email: unu-iasouik@unu.edu

開催趣旨

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット（UNU-IAS OUIK）と七尾市里山里海協議会は、7月4日（土）石川県七尾市で「海の森は魚たちのゆりかご～七尾の里海からみた海草・海藻の世界～」をテーマとした第1回「能登の里海」シリーズ講座を開催します。海草や海藻で形成される海の森には、たくさんの魚と生き物がすんでいます。実は、海の魚と生き物たちの多くは、遠い沖の海や深海ではなく、私達の身近な沿岸の海、つまり里海で繁殖、産卵、子育てをします。そして海の森で大きく生長した稚魚たちはやがて海へと旅立つのです。能登の里海には、アマモ、ホンダワラ、絶滅危惧種のホンエガサなど、実に200種類以上もの多種多様な海草と海藻が育ち、色鮮やかで幻想的な海の世界を生み出すと同時に豊かな海の環境を育んでいます。日本海の里海が古くから豊かな水産物に恵まれているのも、この海の森がたくさんの魚と生き物のゆりかごになっているからではないでしょうか。

本講座では、全国と能登の里海の花草・海藻に詳しい県内外の専門家と七尾の漁業関係者等を講師としてお招きし、それぞれの経験から海草・海藻と生き物との関わり等をお話いただき、地域の生業づくりに里海が果たしている役割や、それらの生業を通じて保全されている里海の魅力を発信したいと考えています。

なお、本講座は、いしかわ・かなざわオペレーティングユニットが実施している「能登の里海ムーブメント」の啓発活動の一環としても位置付けています。「能登の里海ムーブメント」とは、里海概念や、「能登の里海」の魅力と里海に関わる生業について、県内外の方々に、より深く理解していただけるよう情報を発信していくとともに、能登地域を日本海の里海の研究と保全活動の拠点として定着させていくための取り組みであり、この取り組みを通して、「能登の里海」の国内外における認知度を高め、里海における生業の振興に繋がりたいと考えています。「能登の里海」シリーズ講座は年間4回で能登地域にて開催する予定です。

プログラム

13:00-13:15	「七尾の里海」の映像紹介	（能登島ダイビングリゾート提供）
13:15-13:20	開会挨拶	永井 三岐子（UNU-IAS OUIK 事務局長）
13:20-14:00	講義①「アマモ場の多面的機能」	柳 哲雄（九州大学名誉教授）
14:00-14:30	講義②「能登の海藻」	池森 貴彦（石川県水産総合センター普及指導課長）
14:30-14:45	休憩	
14:45-15:25	パネルディスカッション	
	モデレーター：イヴォーン・ユー（UNU-IAS OUIK 研究員）	
	パネリスト：蔵谷 弘（能登島漁師）	
	柳 哲雄	
	池森 貴彦	
15:25-15:30	閉会の言葉	七尾市里山里海協議会

講師・パネリスト



柳 哲雄
（やなぎ てつお）
九州大学名誉教授

京都大学理学部卒、同大学院理学研究科地球物理学専攻修了。講師・助教授・教授を経て1997年より九州大学応用力学研究所教授。2007年から2008年九州大学応用力学研究所・東アジア海洋大気環境研究センター長。2008年から2012年まで九州大学応用力学研究所・所長。2013年より九州大学名誉教授。2014年より（公財）国際エメックスセンター特別研究員。「里海」という言葉の生みの親として「里海創生論」等の著作を持つ里海研究の第一人者。



池森 貴彦
（いけもり たかひこ）
石川県水産総合センター普及指導課長

石川県生まれ。石川県職員。長崎大学水産学部卒業。日本藻類学会会員。1997年のナホトカ号の重油流出事故の際に県内全域の沿岸に生育する海藻や動物の影響調査を担当しました。その後も藻場の造成や環境の調査を行い、能登半島での藻場の季節変動や生産力、分布状況等を明らかにしました。藻場造成では従来の方法よりも効果的に造成するための手法を検討しました。海藻や藻場の生態について調査研究に取り組んでいます。



蔵谷 弘
（くらたに ひろし）
能登島漁師

七尾市能登島通町出身。約60年もの間、七尾湾で漁船漁業の漁師を生業としてきました。4月～6月は貝桁操業により赤貝・トリ貝、6月～10月は底びき網によりエビ・サヨリ、11月～3月はナマコ漁など年間通じて七尾湾内で多様な漁を行っています。能登島の漁師の中でも、七尾湾の里海の魅力を知りつくしているお一人です。



イヴォーン・ユー
UNU-IAS OUIK 研究員

シンガポール出身。13年前に沖縄県費留学生として初来日し、その後シンガポール政府国家公務員を経て今年で来日通算9年目を迎えました。2011年の夏にUNU-IAS OUIKのインターンを経験した縁で、2012年秋、東京大学公共政策大学院卒業後に国連大学に入所しました。現在はUNU-IAS OUIKの研究者として、能登の世界農業遺産（GIAHS）の保全と能登の里山里海資源の持続的な利用について研究と保全活動に取り組みながら、東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻博士課程（国際水産開発専門）に在籍。